

# ハイリスク薬管理指導ガイダンスDB

## 大分類

医療機関システム

調剤薬局システム

## 中分類

服薬指導支援

## 概要

ハイリスク薬(特に安全管理が必要な医薬品)の薬物治療管理と服薬指導、及び薬歴(指導記録)記載を支援するデータ

## 特徴

「ハイリスク薬の薬学的管理指導に関する業務ガイドライン」\*に基づきプランを設定

プランに紐づくSOAP形式データを選択していくことにより、薬歴作成が可能

\*日本病院薬剤師会や日本薬剤師会により策定

# ハイリスク薬管理指導ガイダンスDB

## ご利用場面

病院の薬剤部門システムで

調剤薬局システムで

- ハイリスク薬が処方されている患者さんへの服薬指導のテンプレートとして

# ハイリスク薬管理指導ガイダンスDB

## 管理指導プランデータのデータ例

医薬品名: テグレトール細粒50% (抗てんかん薬)

プラン	プラン分類
1 処方内容(薬剤名、用法・用量等)確認する。	適正処方
2 併用薬(処方薬、一般用医薬品)、サプリメント等との相互作用が発現していないか確認する。	相互作用
3 てんかん発作の発現状況を聴取し、治療効果を確認する。	治療効果
4 てんかんの薬物治療コントロール指標となる検査データ(薬物血中濃度、脳波検査等)を確認する。	アドヒアランス

- 多数のプランの中から、プラン分類で指導したいプランを抽出することが可能

# ハイリスク薬管理指導ガイドンスDB

## プラン\_SOAPデータのデータ例

医薬品名: テグレトール細粒50% (抗てんかん薬)

### プラン

処方内容(薬剤名、用法・用量等)を確認する抗てんかん薬による薬物治療の意義について十分に理解しているか確認する。

主観的・客観的情報	SO属性	評価・指導内容	AT属性
てんかんの薬物治療の意義について理解している。	0	薬についてわからないことがあれば相談するよう説明。	T
てんかんの薬物治療の意義について知識不足。	0	抗てんかん薬の薬物治療目的は発作予防であるため、発作がなくても指示通りに正しい使用を継続することが重要であることを説明。	T

- プランに対して主観的・客観的情報(S/O)と評価(A)、指導内容(T)をデータ化

# ハイリスク薬管理指導ガイダンスDB

## システム、Web等でのプラン選択と薬歴イメージ(1/2)

### 医薬品名: テグレトール細粒50% (抗てんかん薬)

選択プランに応じて、主観的・客観的情報と評価、指導内容を表示

	プラン	プラン属性	プラン分類
<input type="checkbox"/>	処方内容(薬剤名、用法・用量等)を確認する。	OP	適正処方
<input checked="" type="checkbox"/>	併用薬(処方薬、一般用医薬品)、サプリメント等との相互作用が発現していないか確認する。	OP	相互作用
<input type="checkbox"/>	てんかん発作の発現状況を聴取し、治療効果を確認する。	OP	治療効果
<input type="checkbox"/>	てんかんの薬物治療コントロール指標となる検査データ(薬物血中濃度、脳波検査等)を確認する。	OP	治療効果
<input type="checkbox"/>	抗てんかん薬による薬物治療の意義について十分に理解しているか確認する。	CP	アドヒアランス
<input type="checkbox"/>	処方薬について、指示通りに使用されているか確認する。	CP	アドヒアランス
<input type="checkbox"/>	抗てんかん薬の治療継続が困難な状況(剤形、服用量、服薬タイミング)がないか確認する。	CP	アドヒアランス
<input type="checkbox"/>	連用中のノンコンプライアンスによるてんかん重積の危険性について知識を確認し、説明する。	CP	アドヒアランス



	主観的・客観的情報	SO属性	評価・指導内容	AT属性
<input type="checkbox"/>	相互作用の発現なし。	O	併用に注意が必要な薬について伝え、他に薬を併用する時は医師、薬剤師に相談するよう説明。	T
<input checked="" type="checkbox"/>	相互作用の発現あり。	O	併用薬の使用状況の確認と、医師への報告が必要。	A
<input type="checkbox"/>	相互作用が問題となる併用薬やサプリメントは使用していない。	O	他の薬剤と併用が必要な場合は、医師、薬剤師に相談するよう説明。	T

# ハイリスク薬管理指導ガイダンスDB

## システム、Web等でのプラン選択と薬歴イメージ(2/2)

医薬品名: テグレトール細粒50% (抗てんかん薬)

データからの薬歴記載例

OP	併用薬(処方薬、一般用医薬品)、サプリメント等との相互作用が発現していないか確認する。
O	相互作用の発現あり。
A	併用薬の使用状況の確認と、医師への報告が必要。